

一 般 質 問 通 告 表

			ページ	
①	宮 島 宏	1	(9月2日予定)
②	和 泉 克 彦	3	(〃)
③	伊 藤 麗	4	(〃)
④	保 坂 悟	5	(〃)
⑤	利 根 川 正	8	(〃)
⑥	古 畑 浩 一	10	(9月5日予定)
⑦	渡 辺 栄 一	12	(〃)
⑧	近 藤 新 二	14	(〃)
⑨	新 保 峰 孝	15	(〃)
⑩	加 藤 康 太 郎	17	(〃)
⑪	阿 部 裕 和	18	(9月6日予定)
⑫	東 野 恭 行	20	(〃)
⑬	田 原 洋 子	21	(〃)
⑭	中 村 実	25	(〃)
⑮	田 中 立 一	26	(〃)
⑯	田 原 実	27	(9月7日予定)
⑰	横 山 人 美	28	(〃)

質 問 事 項

① 宮 島 宏

1 故中村榮美子さんの紙芝居資料の活用について

【答弁者：市長、教育長】

NPOまちづくりサポーターズの副会長であった故中村榮美子さんは、失われつつあった糸魚川地域の民話を調査され、日本電信電話公社からNTTに勤務されていた時代には「テレホン民話」として糸魚川の民話を広く情報発信してきました。その後、地元の画家とのコラボレーションによって地元の民話を紙芝居作品に構築し、紙芝居師として様々な場所で地元の民話を紹介してきました。以下伺います。

- (1) 市に寄贈された故中村榮美子さんの紙芝居資料の概要と、寄贈に至った経緯は、どのようなものですか。
- (2) 故中村榮美子さんの紙芝居資料を今後どのように活用していく予定ですか。
- (3) ご遺族はテレホン民話などの故中村榮美子さんの音声を記録したカセットテープを所有され、その活用を望んでおられます。市に寄贈された紙芝居作品や既存の紙芝居作品と音声を組み合わせると、故中村榮美子さんによる紙芝居のデジタルコンテンツを制作することができ、地域の民話をより広範に発信することができますが、そのような取組については、いかがお考えですか。
- (4) 紙芝居は極めてアナログなプレゼンテーションですが、子どもたちの教育にも活かせる手法だと思えます。教育に導入することについては、いかがお考えですか。
- (5) 紙芝居師としての故中村榮美子さんの後継者を育成する必要があると考えますが、いかがですか。

2 林道入山線の今後について

【答弁者：市長】

小滝川ヒスイ峡エリアは、糸魚川ユネスコ世界ジオパークを代表するジオエリアの一つで、その核心部の国指定天然記念物「小滝川硬玉産地」に至る最短ルートが林道入山線です。私は幾度となくこのエリアの案内をしてきましたが、できる限り入山線でヒスイ峡に入るようにしてきました。それは入山線を進むにつれて、眼下の小滝川の清流とともに明星山の石灰岩の絶壁が眼前に迫り、例外なく見学者が感動するからです。心を揺さぶる風景が入山線にはあるのです。

しかしながら、今年度は大雪で破損した落石防止柵の復旧工事で入山線が開通したのは8月11日でした。その後、21日に落石があり、通行の安全を確保できないことから今年度中は通行止めとなりました。翡翠が新潟県の石に認定されようとしている中、小滝川ヒスイ峡へのアクセスは今まで以上に重要となりますので、以下伺います。

質 問 事 項

- (1) 今回の落石は2018年に巨大な落石があった現場の近傍でした。落石が発生しやすい場所は把握できていますので、そのような場所に、より確実な落石防止対策を講じることを検討されていますか。例えば落石多発地にロックシェッドがあれば安全に通行できます。諸機関と連携して、より確実な落石対策を検討されてはいかがでしょうか。
- (2) 今年度の通行止めでは、瀬野田の分岐点にある看板が日本語のみの表記だったため、外国人の観光客が道が分からず困っていたそうです。地元の人は言葉の壁で迂回路を伝えるのに苦労したと聞いています。入山線に限らず市内の臨時的看板にも英語併記や、二次元バーコードによる文字情報提供をされる考えはありますか。

3 持続可能な観光地としてのゼロカーボンパークと環境について

【答弁者：市長】

ゼロカーボンパークは、環境省が推進している脱炭素化に取り組む国立公園のエリアです。国内では10のエリアが指定され、県内では妙高戸隠連山国立公園の妙高市が2022年3月18日に指定されています。当市の第3次総合計画では、再生可能エネルギー導入等による二酸化炭素排出量の削減が施策の方向に明記されており、今年は国連海洋科学の10年に合わせて、積極的な海岸清掃、海洋マイクロプラスチック問題について講演会や展示会が行われています。このような情勢を鑑み、以下について伺います。

- (1) 妙高戸隠連山国立公園に属する雨飾山周辺、中部山岳国立公園に属する蓮華温泉周辺を、ゼロカーボンパーク指定に向けて取り組む考えはありますか。
- (2) ゼロカーボンパークの思想や方法をジオパークに応用し、「ゼロカーボン・ジオパーク」や「ゼロカーボン・ジオエリア」を当市のジオパークで進め、国内のジオパークに導入を提案する考えはありますか。
- (3) 国連海洋科学の10年関連の講演では、身近なことから脱炭素・脱プラスチックを一人ひとりが実行することが、海洋ゴミ削減と地球温暖化防止の第一歩とされていました。言うだけでなく、行動で示すことが大事だと思います。公共施設内のペットボトル容器入り飲料販売を縮小あるいは廃止する考えはありませんか。また、食品ロス削減のために「まえどり習慣」を当市で広く普及させる考えはありますか。

質 問 事 項

② 和 泉 克 彦

1 新型コロナウイルス感染症及びワクチン接種の現状と課題、そして今後について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 1回目から4回目までの接種状況及び5歳から11歳までの接種率について伺います。
- (2) これまでの接種における副反応と後遺症の報告について伺います。
- (3) 現在、4回目の接種が行われています。厚生労働省は8月8日、新型コロナウイルスのオミクロン株に対応したワクチンの接種を、2回目までのワクチン接種を終えた全ての人を対象に、10月中旬以降に開始する方針を決定したとの報道がありました。行政としては、今後、どのような対応をしていくのか伺います。
- (4) このことにより、3回目、4回目のワクチン接種を控える方がいるかと思われれます。現在、どのような反応があるのでしょうか。また、今後、予想される反応に対して、どのように対応していくのか伺います。
- (5) これまで、政府、厚生労働省は、「接種は強制ではない」として、未接種の方々への差別や誹謗中傷等がないようにしてきましたが、新型コロナウイルスの流行「第7波」を受け、厚生労働省の分科会がワクチン接種への協力を求める「努力義務」を、対象外だった5歳から11歳にも適用する方針を了承するなど、子どもへの接種を推進する姿勢を示しています。9月にも適用される見通しで、この努力義務で同調圧力がかかり、事実上の強制と受け取られかねない懸念もありますが、このことについて、行政として、また、教育委員会はどのように対応するのか伺います。

2 糸魚川地域の鉄道を利用した地域観光の連携等について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 現在、大糸線応援隊が2,000名を超えているかと思われれますが、ここまで増えた応援隊の本来の活動内容とは、どのようなものか伺います。
- (2) 「大糸線地域おこし協力隊」の募集が、令和4年7月1日から8月31日まで行われています。この協力隊は、「ローカル鉄道の利用促進プランナー」として募集されています。この募集の意図するところを伺います。
- (3) 8月18日、本庁舎内で、糸魚川高校2年生6名による「押上駅×糸高生 探究活動プロジェクト」提案発表会が開かれました。糸魚川高校の最寄り駅になった「えちご押上ひすい海岸駅」とその周辺地域の活性化策について、「日本一おもしろい帰り道を考えてみたら最高だった」がテーマでした。6名は、糸高生の現状として、「思い出・青春がない」「遊ぶ所がない」「電車の待ち時間がきつい」

質 問 事 項

と分析し、「駅に行く理由がある」「誰もが笑顔になれる」「糸魚川の魅力の発信地」として「フォト掲示板」をホームに設置し、市民も観光客も利用でき、鑑賞できるようにするという提案がなされました。このような高校生の提案についてどのように考えているのか伺います。

- (4) 鉄道駅に隣接する観光掲示板などの表示や内容等について、適切な管理がなされているのか伺います。

③ 伊 藤 麗

- 1 糸魚川市における人権教育・啓発推進と、男女共同参画について

【答弁者：市長】

糸魚川市では、「一人ひとりがお互いを認め合い、共に生きるまちづくり」を目的とした第2次糸魚川市人権教育・啓発推進計画（令和4年度～令和8年度）と「一人ひとりがお互いを認め合い、個性と能力を発揮できる社会の実現」を目的とした第3次いといがわ男女共同参画プラン（令和4年度～令和8年度）が策定されています。

「女性の活躍」と聞くと、経営をしている、管理職に就いているというようなキャリアを追求した女性をロールモデルとして思い浮かべがちですが、ここでは「女性がいきいきと働き、生活すること」と置き換えて考え、それに必要な支援をどのように捉えているかを伺います。

- (1) 「令和元年度版新潟100の指標」によると、女性就業率で糸魚川市は県内30市町村中、下から3番目で28番に位置づけられています。この結果を受けて市として何が課題と認識しているか伺います。
- (2) あらゆる暴力の根絶を推進施策として掲げていますが、DVの被害に悩む女性の相談窓口と支援体制を伺います。
- (3) ワークライフバランスの向上について、糸魚川市として現在行っている支援はあるか、また成果があったか伺います。

- 2 子育て支援・親支援について

【答弁者：市長、教育長】

糸魚川市では、明日の糸魚川を担う「ひとみかがやく日本一の子どもをはぐくむ」第2期糸魚川市子ども・子育て支援事業計画が令和2年度から令和6年度までの5年間で定められており、今年度は本計画実施3年目に当たります。計画を作成した令和元年度には、新型コロナウイルスも、ロシアによるウクライナ侵攻も、差し迫って糸魚川総合病院の産科存続の危機もなかったことから、この計画の点検と見直しが必要

質 問 事 項

な時期であると考えます。

- (1) 産科存続に向けた取組の進捗と、産前産後ケアの充実についての検討状況を伺います。
- (2) コロナ禍も第7波を迎え、糸魚川市においても8月24日に公表された感染者数は100名を超えました。自身や家族の感染や、濃厚接触者として自宅待機を強いられ、思うような就労がかなわず、更に物価の高騰が家計に重くのしかかっています。子育て世帯に収入制限のない経済的負担軽減措置の必要性について、お考えを伺います。
- (3) 前回の6月定例会一般質問で、令和2年度児童相談件数の増加理由について、「関係機関等に相談窓口の周知が図られ、適切な相談につながったためであり、適切な支援がなされている。」と市長答弁がありました。未就学児と就学児童それぞれで要保護児童数も増加しているのか伺います。
- (4) 子育てについての施策や、受けることのできる支援が、糸魚川市のホームページに分かりやすく表示されれば、糸魚川市が子育て支援に本気だということをアピールすることにつながると考えます。今の状態が最適とお考えか伺います。

④ 保 坂 悟

1 大糸線問題と広域観光と地域活性化について

【答弁者：市長】

国は観光立国を目指し観光庁を設置し、訪日外国人による経済効果を目指したが、コロナ禍で進んでいない。JRはローカル線の赤字補填がコロナ禍で深刻な問題となっている。そこで、今後の糸魚川市の取組方針を伺う。

- (1) 大糸線のような赤字ローカル線について「生活の足」から「インバウンド観光」に目的を変更し、観光庁を中心に広域観光戦略を大きく展開する国策とし、沿線自治体とJR等の民間とともに連携事業化を目指す考えはあるか。
- (2) 鉄道観光を含めた広域観光バスやタクシーの拡充ができる新潟県、長野県、富山県等とそれぞれの市町村と連携した広域観光公社をつくる考えはあるか。
- (3) 平成27年2月27日の一般質問で戦略的観光公社の提案をしたが、既存の観光協会を拡充する方針であった。改めて①糸魚川市の四季を楽しむ戦略、②ターゲットを絞った安定的な利用者の確保、③通年ガイド兼各種インストラクターとなる人材の確保と育成、④広域で稼ぐため他市町村の施設を利活用する観光ルートの開発、⑤他市にはない楽しみ方を提供するための観光戦略が必要である。こうした取組のために糸魚川市観光公社の設置を提案するが、検討する考えはあるか。

質 問 事 項

2 学校等におけるSDGs（持続可能な開発目標）の取組について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 「SDGs」の定期的なセミナーについて

SDGsの目的と取組について理解を深めるセミナー活動は、どのように展開されているか。

(2) 貧困や飢餓、健康や教育、ジェンダー平等などについて

- ① LGBTQ（性的マイノリティ）を理解する取組はあるか。
- ② 学校の制服や体操着、水泳着について検討をしているか。
- ③ 学校のトイレや更衣室について検討をしているか。
- ④ 人権擁護と男女共同参画の推進として、雇用（就労）における男女差について、日本の実態や現状を紹介しているか。

(3) 気候変動対策と自然環境の保護について

- ① 脱炭素社会について具体的な取組を紹介しているか。
- ② 海洋と海洋資源の保護についての取組を紹介しているか。
- ③ 陸上生態系の保護と森林等の持続可能な管理についての取組を紹介しているか。

(4) 中学生キャリアフェスティバルについて

参加事業所からSDGsの取組を紹介してもらうことはできるか。

3 糸魚川市におけるSDGs（持続可能な開発目標）の取組について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 「SDGs」の市民セミナーについて

SDGsの目的や取組について一層の理解を深め、身近なところから始める世界貢献を推進するセミナーを行う考えはあるか。

(2) 世界ジオパークを活かしたSDGs観光の振興について

- ① ジオエリアの楽しみ方を工夫する取組はあるか。
- ② 海をきれいにする観光や山林を保護する観光の取組はあるか。
- ③ 子どもたちの体験観光についての取組はあるか。

(3) 気候変動対策と自然環境の保護と仕事の提供について

- ① 水力や風力による脱炭素社会についての取組はあるか。
- ② 海洋と海洋資源の保護と活用についての取組はあるか。
- ③ 陸上生態系の保護と森林等の持続可能な管理と活用についての取組はあるか。

質 問 事 項

(4) 貧困をなくす活動について

- ① 低所得者世帯への支援について取組はあるか。
- ② シングルマザー世帯等への就労支援と教育支援についての取組はあるか。
- ③ 貧困の負のスパイラルを断ち切る取組はあるか。

4 農林水産業と福祉事業との連携について

【答弁者：市長、教育長】

障がい者雇用の推進は法律に基づき行われているが、不登校・いじめ・パワハラ等の原因によりひきこもりになり、外で働くことが難しくなった方たちがいる。そこで、就労環境を変えることや精神的な配慮をすることで働く場所や働く機会の提供を積極的に行う必要があると考える。

(1) 福祉事業としての農林業の職場開発について

- ① 農作業や除草について検討する考えはあるか。
- ② 間伐と植林作業について検討する考えはあるか。
- ③ 除雪作業について検討する考えはあるか。
- ④ 耕作放棄地の活用について検討する考えはあるか。

(2) 福祉事業としての水産業の職場開発について

- ① 未利用魚の活用について検討する考えはあるか。
- ② 海洋高校と漁協と漁港のコラボレーション企画として「面白くてうまい店づくり」について検討する考えはあるか。
- ③ 養殖事業の推進について検討する考えはあるか。

(3) 糸魚川市シルバー人材センターの改革について

センター設立当時と退職者の再雇用などで背景が大きく変わっている。そこで市として福祉事業部門の設置を検討し、提案できないか。

5 教職員へのサポート体制について

【答弁者：市長、教育長】

昨年9月3日の一般質問で学級崩壊が起きた場合の教職員への支援策について質問し、「実態を丁寧に把握して、ケースに応じた支援を行っております。」と答弁があった。ただ、ケースによっては対応しきれないこともある。そこで以下の項目を伺う。

(1) 教職員の負担軽減とサポートの取組について

- ① 学級崩壊等の対応について
- ② いじめ・不登校の対応について
- ③ 保護者によるハラスメント等の対応について

質 問 事 項

④ 教職員によるハラスメント等の対応について

⑤ 就労時間の管理について

(2) 教職員の不祥事について

教職員の不祥事やミスのニュースがよくある。そこで県と連携した不祥事防止等の対策や取組の強化は行っているのか。

(3) 教育費の増額と教職員の加配等の拡充について

多様化する学級（学校）運営には、十分な人員配置が必要である。市は県と共に抜本的な適正配置の考え方を見直し、「働き方」より「適正な仕事量」や「精神的な負担軽減策」について、国や県に提案してはどうか。

⑤ 利根川 正

1 農業の肥料、燃料の支援と農業の取組について

【答弁者：市長】

コロナ不況やロシアによるウクライナ侵攻などにより物価高が続き、肥料は昨年より1袋500円ほどの値上がりで、燃料においては1年前のガソリン代1リットル当たり158円から今年8月には170円で12円の値上がりになっています。

今後も数年続くと考えられ、農作業機械の使用頻度を控えたり、化学肥料を減らし有機栽培をするなど努力していますが、生産者は厳しい状態です。

(1) 肥料が値上がりした際に生産者を直接補助する制度がなく、今回新たに政府は、化学肥料で2割低減の取組を行う農業者に、肥料コスト増加分の約7割を補填する補助を打ち出しました。糸魚川市の対応について伺います。

(2) 燃料代は、9月末に期限を迎えるガソリン補助金（燃料油価格激変緩和補助金）の延長を政府は検討されていますが、農家の冬のビニールハウス栽培にかかる燃料代、また、住宅の暖房、特に高齢者世帯の灯油代などに補助を考えてもらいたいが、糸魚川市の考えを伺います。

(3) 農地の集約化と人の確保、育成、農地保全による荒廃防止などを旨とする「人・農地関連法」について、分散錯^ほ圃の状況にある農地を使いやすくまとめるため、将来の農地利用の姿を描き、計画的に集積・集約化を進め、協議の場を設けて話し合いを行って地域計画を策定する内容であるが、それに向けた糸魚川市の方向性と考えを伺います。

(4) 農業委員会は関係機関の協力、農業者の意向を踏まえ、目標地図の素案を3年程度のうちに作成するとありますが、それに向けた糸魚川市の考えを伺います。

(5) 新規就農者の体制について、2022年度から新規就農者育成総合対策として、地域における新規就農者のサポート体制構築事業は、就農相談から研修、就農後

質 問 事 項

の定着までサポート体制を支援するものでありますが、糸魚川市の支援体制について伺います。

(6) 2021 年度から農林水産省も農村RMO（農村型地域運営組織）に力を入れていて、上越市清里区では、農家の高齢化による担い手不足を解決するため、星の清里協同組合を立ち上げ、県内外から職員を採用し、複数の農業法人に派遣する取組で、次世代の育成と冬場の雪下ろし支援も実施しています。このような活動組織を糸魚川市でも進められないか伺います。

(7) 米の用途を広げる取組について

- ① 食料品の価格が高騰する中、米の需要増に向けた取組が必要ですが、糸魚川市の考えを伺います。
- ② 糸魚川産米も新潟県特別栽培農産物認証制度等の認証を受けるなど、特色ある米作りが必要ですが、市の考えを伺います。
- ③ 米粉の活用範囲の拡大と新たな用途開発ができないか伺います。
- ④ 輸出拡大実行戦略の取組を加速させるために、糸魚川産米を海外に輸出できないか伺います。

(8) 水耕栽培について、糸魚川市内において、水耕栽培を実施している企業がありますが、旧小学校を使用して、農業と福祉の連携で野菜、果物を水耕栽培できないか伺います。

2 特殊犯罪の防止と対策について

【答弁者：市長】

(1) 糸魚川市にも以前爆破予告メールが来ました。当日は市役所を閉鎖し、職員が対応していましたが、今年6月には阿賀野市に園児や児童の誘拐予告メールが来るなど、県内自治体でも発生しています。県警からは、ネットユーザーによる犯行で、メールは海外のサーバーを複数経由し追跡を困難にしている報告がありました。今後の糸魚川市の対応について伺います。

(2) 全国で毎日のように特殊詐欺被害が報告されています。特に高齢者への電話や訪問販売の被害が多いですが、防犯機能付き電話機の活用を進めたり、市役所で行っているスマートフォン講座で特殊詐欺電話の対処法などを教えられないか伺います。

(3) 金融機関の支店が無くなり、ATMの利用が多くなっていることで特殊詐欺の被害が心配されます。振り込んだ後では取り戻すことは難しく、金融機関、コンビニエンスストア、警察、民生委員、市が協議会を作って、いつもと違う行動をしたり、機械の操作方法など分からない人などいたときに、糸魚川市に連絡が取れる取決めができないか伺います。

質 問 事 項

⑥ 古 畑 浩 一

1 「コロナ第7波」の対応と問題点について

【答弁者：市長】

3年ぶりの行動規制なき夏は、夏休み・お盆・旅行振興政策なども相まって人流が増大し、国内外を問わず、各地の観光地や商業施設はにぎわいを取り戻した。しかし、その代償は大きく新型コロナウイルス感染者数は、全国や新潟県、糸魚川市においても過去最多を大幅に更新し、死亡者も過去最多となった。

これは「根拠無き見切り発車」と言え、結果、医療のひっ迫や感染警戒による外出控えなどにより市民生活、企業活動、夜の飲食店など深刻な状況となっている。さらに「BA.5対策強化宣言」が発せられたが、これは「補償無き行動規制」であり、見殺し政策と言えるものである。

これらを踏まえて、コロナ禍対応について、以下伺う。

- (1) 行動規制は行わないということは、今回の拡大は予想できたのか。
- (2) コロナ禍による被害をどのように捉えているか。また、災害と捉えているか。
- (3) コロナ禍、猛暑、天候不順、物価の急上昇など経済状況をどのように捉えているか。また、市民生活への影響をどのように捉えているか。
- (4) 今後の対応について、困窮する医療福祉・教育・サービス業など、どのように対応するのか。被害者救済をどのようにするのか。
- (5) 「BA.5対策強化宣言」は継続するのか。その影響は。
- (6) 全数把握か定点把握か。その意味するものは。メリット・デメリットはどうか。

2 人口問題と少子化について

【答弁者：市長】

人口40,093人（8月1日現在）と4万人割れも秒読み段階となり、抜本的な対応に迫られている。人口問題は、市町村合併に至る大いなる課題と言え、最大の懸案事項であると言える。以下について伺う。

- (1) 子どもの出生数の減少をどのように捉えているか。
- (2) 人口問題を総合的に捉えて、これまで個々に取り組んできた出会いから結婚、出産、子育て、進学までを一連のプランニングとし、安心して生み育てるプランニングを策定すべきではないか。
- (3) 安心して定着し、暮らすことのできる「医・職・住」の充実、安定供給できる環境づくりをどう進めていくのか。
- (4) 子育て支援センターの概要と、この施設が優先的に必要なのか。

質 問 事 項

- (5) 「おめでた祝い金（出産準備金）」や「出産祝い金」、「マイホーム補助金」、「地元就職祝い金」など、魅力ある制度を拡充・導入すべきと思うがどうか。
- (6) これらを一元化した、生まれてから他界するまでの総合計画「イトヨ・プラン」を策定すべきではないか。
- (7) 未来を支える子どもたちを育成するために重要な教育。しかし荒廃する教育現場。どのように現状を捉え、どう対処するのか。
- (8) 市勢発展・交流人口の増大へ、「十字型経済圏」の確立、「塩の道経済圏」、「親不知ヒスイロード」、「サンセットシーサイドロード」、「日本海ゲートウェイ・ポート」など、それぞれの方向性ごとに推進し、近隣自治体とウインウインの関係を構築すべきではないか。

3 新たに発覚した県単価漏えいについて

【答弁者：市長】

官製談合や最低価格失格業者との違法契約、その中で発覚した県単価漏えい。そしてまた新たに発覚した県単価漏えい。終わりなき不正と不祥事の数々に怒りを覚えるものである。

以下について伺う。

- (1) 新たに判明した県単価漏えい。なぜ気付かなかったか。
- (2) 駅北広場キターレの設計変更はなぜ起こったか。
- (3) 過去の教訓が全く生かされていないのではないか。

4 権現荘指定管理について

【答弁者：市長】

権現荘指定管理者の更新時期を迎え、どのように対応するのか伺う。

- (1) 指定管理に至った経緯は。
- (2) 4億円もの経費をかけ、リニューアルし、民間移譲を目指したものの、突然の市長判断により株式会社能生町観光物産センターに特命随意契約したのはなぜか。
- (3) 指定管理の条件はどのように変更されたか。
- (4) 経営課題は何か。

質 問 事 項

5 政治と宗教。故安倍晋三元首相と行政の関わりについて

【答弁者：市長】

選挙の応援演説中、凶弾に倒れた安倍元首相。殺害された政治家は過去には枚挙にいとまがないが、令和のこの時代に起こるとは、信じられないとともに心より怒りを覚えるものである。一方、この事件を契機に政治と宗教の関わり合いが取り沙汰され、自由民主党の国会議員を始め、あらゆる議員、自治体などに関係性の有無を明らかにすることが求められている。

以下について伺う。

- (1) 糸魚川市として、ピースロードなど世界平和統一家庭連合（旧統一教会）との関わりはないのか、市長個人としてどうか。
- (2) 安倍元首相の記帳所はなぜ行政が設置したのか。前例はあるのか。
- (3) 国葬にはどう対応するのか。

⑦ 渡 辺 栄 一

1 当市における地域おこし協力隊員の高校魅力化コーディネーターについて

【答弁者：市長、教育長】

高校魅力化コーディネーターは、総務省の外部人材活用制度の一つである「地域おこし協力隊」制度を活用したものと理解しているが、7月には2人目が任用され、その取組について伺う。

- (1) 高校の探究学習への授業支援とは、具体的にどのような内容のものなのか。
- (2) 自習スペースの管理運営とは、どのようなものなのか。
- (3) 県立高等学校3校のそれぞれの課題は何だと捉えているか。
- (4) 人材投入後、何をもちて成果が出ていると判断していくのか。
- (5) 任期終了後の隊員の再就職口は決まっているのか。

2 当市のにぎわいの拠点施設「駅北子育て支援施設」計画について

【答弁者：市長】

8月末で駅北子育て支援施設について、それぞれ各地区の懇談（3巡目）等が終了した。今後の計画スケジュール等について伺う。

- (1) 子育て支援施設での主な悩み相談とは、どのようなものがあるのか。
- (2) 当施設が糸魚川市にとって、どのようなメリット・効果（インパクト）が期待できるのか。

質 問 事 項

- (3) 人口減少が著しい当市にとって、対象年齢等を限定した事業そのものが拡大し過ぎているように映るが、どう考えるか。
- (4) 費用対効果の分析ができており、加えて新たな施設の建設により、当市の財政に負荷が生じていく危険（リスク）はないのか。
- (5) 市内には、他の既存施設や空き店舗等がたくさんあり、改修・再利用を図っていくことで、限られた予算を「ハコモノ建設」より相談機能の充実などに充てるべきと考えるが、いかがか。

3 柵口温泉権現荘の指定管理の運営について

【答弁者：市長】

柵口温泉権現荘の指定管理者の指定期間が、今年度末に満了となることから、令和5年度からの次期指定管理を含めて考えを伺う。

- (1) 指定管理者制度は、公の施設の管理に民間のノウハウを活用し、住民サービスの向上や収益を図ることを目的としていると理解しているが、黒字化したという声が聞こえてこない理由は何だと考えているか。
- (2) 当施設の魅力は何だと考えるか。また、反対に欠陥等は無いのか。
- (3) 申請期間が9月末となっているが、前回との応募資格の変更点及び応募状況はどのようになっているか。
- (4) 利益の出せない企業は淘汰されていくが、市は指定管理者を指定する側として、施設運営上の課題や問題点等に対し、どのように把握して、改善サポートをしていくのか。

4 当市の諸課題について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 8月4日、当市ホームページに「新潟県が作成する積算関係図書の取り扱いにおける協定違反について」と題し、2件の事案が判明したとあるが、昨年の判決公判から公共事業に対する糸魚川市役所の信用が維持できているのか。まだどこに問題があるのか、伺う。
- (2) 肥料価格の高騰による農業経営への影響緩和のため、国は化学肥料の2割低減農家に対して、前年度から増加した肥料費の約7割を補填するとあるが、当市も独自の追加支援策は考えているのか。
- (3) 食料品の値上げが相次ぎ、家計にも影響が出始めている。市内公立小・中学校の給食費の圧迫が必至と考えられるが、現状はどうなっているか。また、場合によっては、予算措置による給食費の据置きも必要と考えるが、いかがか。

質 問 事 項

⑧ 近 藤 新 二

1 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組について

【答弁者：市長】

2020年10月、我が国は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。

2021年4月には、2030年度に2013年度比で温室効果ガス46%削減を目指すこと、更に50%の高みに向けて挑戦することを表明しました。

現在、我が国は年間で12億トンを超える温室効果ガスを排出しており、2050年までにこれを実質ゼロにする必要があります。2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会への挑戦が、産業構造や経済社会の発展につながり、環境と経済の好循環を生み出すという発想で取り組んでいく必要があります。特に、新たな地域の創造や国民のライフスタイルの転換など、カーボンニュートラルへの需要を創出する経済社会の変革や国際的な発信に取り組むとされ、カーボンニュートラルはSDGsの次の目標に相当すると言われていています。

糸魚川市の取組について、以下の項目について伺います。

- (1) 2050年までの計画について
- (2) 市（自治体）の地域脱炭素化事業について
- (3) 化石燃料に頼らない電力について
- (4) 市内事業者のカーボンニュートラルの相談窓口について

2 子どもの貧困問題について

【答弁者：市長】

近年の日本では、貧困に悩まされている子どもの数が多く問題となっています。その背景には現在の社会の状態や、経済、家庭の在り方など数々の要因が絡み合い、貧困率を高めてしまっています。

2019年に発表された世界の貧困率比較では、日本の貧困率は15.7%と高く、世界で12位に位置しています。これは先進国の中でアメリカに次いで2番目で、日本の相対的貧困率がとても高いことが伺えます。政府は国を挙げて対策を行っていますが、いまだ問題の解決までは至っていません。

厚生労働省が発表した「2019年国民生活基礎調査」によると、7人に1人が貧困状態にあると言われていています。このことから日本の貧困問題は深刻であることが分かります。また、相対的貧困率の15.7%のうちの半数がひとり親世帯であることも大きな問題です。ひとり親の場合、家事と仕事、育児を一人で行わなければなりません。家事や育児の比重が高いほど、生活がより苦しいものとなります。金銭的な問題

質 問 事 項

だけでなく、日々の疲労やストレスが蓄積されていくと身体的・精神的な問題にもつながりかねません。ひとり親世帯は子どもにも悪影響が出る可能性もあります。例えば、親はお金を稼がなくてはいけないため深夜まで仕事をし、家に帰れないというケースです。そうなった場合、子どもは一人で過ごさなくてはいけなくなり、コミュニケーションを取る機会が減ってしまいます。コミュニケーションは成長過程において重要な要素であり、おろそかになると子どもが大人になった時に苦労します。また、一人では勉強で分からないことがあっても聞くことができず、宿題をする習慣も身に付かないなど、学力低下につながる要因が多いのが実状です。さらに貧困が原因で塾や習い事など、学校以外で学習する機会が少ないことも教育格差につながります。現に、日本財団が発表したデータによると、一般的な水準の家庭よりも貧困家庭の子どもの方が学力が低い傾向があるという結果も出ています。幼少期から差が出始めると、大人になったときにより大きな経済・能力格差になってしまうとされています。糸魚川市の現状について、以下伺います。

- (1) 貧困家庭の生活保護受給者について
- (2) 子どもが安心して過ごせる居場所と学習サポートについて
- (3) 温かい食事について

⑨ 新 保 峰 孝

1 高齢者の補聴器購入費助成について

【答弁者：市長】

- (1) 認知症の危険因子の一つに「難聴」が位置づけられている。「難聴」と認知症の関係について、どのように捉えているか。
- (2) 難聴高齢者の社会参加促進のためには、早期発見と補聴器装用、装用後の支援が必要とされているが、どのようにお考えか。
- (3) 高齢者の難聴対策として、県内の多くの市が補聴器購入費助成を行っている。糸魚川市も実施すべきではないか。

2 新型コロナウイルス感染症対策について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 第7波新型コロナウイルスの発症・感染の現状をどのように捉えているか。
- (2) 医療体制はどのような状況か。
- (3) 国が感染防止対策を変える方向で検討しているとのことだが、その内容と糸魚川市への影響はどうか。

質 問 事 項

(4) 今後のワクチン接種はどのように進めていく考えか。

3 入札・談合問題について

【答弁者：市長】

(1) 2014年5月27日の最高裁判決は、2親等規制を認めた。米田市長は発注者であり、より直接的に関係してくると思うがどのように考えているか。

(2) 糸魚川市官製談合再発防止対策検討委員会の答申を受けたが、談合に市の職員が関わっていたことに対する認識と管理監督者としての市長の責任をどのようにお考えか。

(3) 米田市長の親族が経営する会社に、米田市長が工事を発注し契約することは、市長の職務執行の公正さに対する市民の疑惑や不信を招き、最高裁判決の趣旨を踏みにじることにならないか。

4 公職選挙法違反について

【答弁者：市長】

昨年4月の糸魚川市長選挙時に、地位を利用して米田市長への支持を働き掛けたとして、公職選挙法違反の疑いで書類送検されている前副市長の現状はどのような状況か。また、現状をどのようにお考えか。

5 小滝川ヒスイ峡ジオエリアへの交通と指定管理について

【答弁者：市長】

(1) 市外からの誘客についてはどのように行い、現状はどうか。

(2) 交通の利便性確保についてはどのように行っているか。

(3) 落石等の対策工事はどのように行っているか。

(4) 白馬山麓国民休養地の運営についてはどうなっているか。前、現指定管理者はどのようになっているか。

6 安倍元首相死去での市の記帳要請について

【答弁者：市長】

(1) 安倍晋三元首相死去に伴い、糸魚川市が地方自治体として市民に対し記帳要請をしたが、地方自治法上の根拠は何か。

(2) どのような立場の議員であっても、災害が起こり議員の立場で復旧促進に取り組むのは当然のことであり、市民に弔意を要請するのはおかしいのではないか。

⑩ 加藤康太郎

1 第3次糸魚川市総合計画における図書館政策（整備と運営）について

【答弁者：市長、教育長】

第3次糸魚川市総合計画・基本構想の6施策の大綱（まちづくりの基本目標）、第2章 郷土愛にあふれ夢をかなえる人づくり、第3節 生涯学習の振興において、「これからの生涯学習は、社会のニーズに沿った学びの提供、健康寿命の延伸を図り、人との交流を促すスポーツ活動の推進に加え、『学ぶ』『生かす』『つながる』循環型の生涯学習社会の実現に向けて取組を進めます。また、多くの人が読書に親しむ環境づくりにも引き続き取り組むとともに、人が集まる新しい図書館づくりを進めます。」とあります。

また、国においても、平成20年の図書館法（昭和25年法律第118号）の改正により、図書館運営の状況を評価し、改善を図り、運営状況に関する情報を積極的に提供することが努力義務として示されました。それに伴い、平成24年には「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年12月19日文部科学省告示第172号）で基本的な運営方針の策定、それを踏まえた適切な指標・目標の設定、事業計画の策定と公表に努めることが示されました。

- (1) 「糸魚川市立地適正化計画」においても、本市の教育・文化機能の基幹的な役割を担う図書館を誘導施設として設定しており、外部の専門家による「図書館あり方検討委員会」を設置し、これまで担ってきた役割や機能の維持向上に加えて、新たな視点を取り入れた「地域の情報ハブとしての課題解決型図書館」とも言われる、これからの糸魚川らしい図書館の在り方について検討を始めるべきと考えます。「図書館あり方検討委員会」を設置する考えはないか伺います。
- (2) 第3次糸魚川市総合計画における「人が集まる新しい図書館づくり」に向けて、市民への啓発と対話を重ね、市民の理解と参画を図りながら、「図書館整備基本構想」の策定、「新図書館等複合施設整備計画」の策定を進めていく考えはないか伺います。
- (3) 人口減少・少子高齢化に対応し、新たな市民ニーズや社会の要請を踏まえ、新しいつながりや交流の拠点となる図書館や、市民の生涯を通じた学びを支える地域の情報拠点となる図書館として、サービスの充実を図るため、10年間の図書館サービスの方向性について示す「松本市図書館未来プラン」のような図書館の「サービス基本計画」を策定する考えはないか伺います。
- (4) 図書館法の定めにより設置され、図書館の管理運営に関し図書館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館サービスについて館長に意見を述べる機関となる「図書館協議会」を設置する考えはないか伺います。
- (5) 糸魚川市公共施設等総合管理指針に基づき、施設の分類ごとの方針を示す「個

質 問 事 項

別計画」は、令和3年3月に一部が改訂されましたが、図書館においては、平成31年2月の策定時のままとなっています。平成30年度に作成された図書館の「施設カルテ」とともに改訂する考えはないか伺います。

(6) 図書館（3館）の利用状況と抱える課題など、総合管理指針による分析と評価、整備方針について伺います。

(7) 糸魚川市図書館窓口等業務委託（令和4年10月1日から令和7年9月30日まで）のメリット、デメリットについて伺います。

⑪ 阿 部 裕 和

1 道の駅「親不知ピアパーク」及び周辺の整備について

【答弁者：市長】

大自然と農水産物に恵まれた糸魚川市にスポットが当てられ、地方放送のみならず全国放送でも当市が取り上げられることが増え、嬉しく思うと同時に、更に広報していく絶好の機会だと考えます。記憶に新しいところでは撮影場所に親不知ピアパークが選ばれ、ヒスイ探しや岩牡蠣^{がき}等のグルメがテレビで紹介されました。

また、親不知ピアパークは、平成30年3月24日からETC2.0搭載車で、高速道路利用者が休憩のため高速道路から一時退出しても、道の駅で休憩して戻れば、降りないときと同じ料金で利用可能となる「賢い料金」社会実験対象の道の駅でもあります。

施設の開設から30年以上がたち、時代もニーズも変化しております。これらのことを踏まえ、今こそ新たな展開の検討・具体化を進め、観光振興や交流人口の拡大に取り組むフェーズだと考え、以下伺います。

(1) 令和2年3月27日から令和4年6月30日まで、高速道路の一時退出可能時間が、1時間から3時間に延長されました。それにより道の駅の利用者数の推移は、どのような変化があったか伺います。

(2) 多くの方が利用する道の駅ですが、老朽化が進み時代に合わず、道の駅として利用しづらい施設となっています。今後の整備計画について伺います。

(3) 翡翠ふるさと館では、橋立ヒスイ峡から移設された世界最大級のヒスイの原石の展示がされていますが、現在の取組状況と今後の展望について伺います。

(4) 道の駅にオートキャンプ場やRVパーク（車中泊施設）といった、アウトドア施設の整備を進める自治体もあります。目の前に広がる海の絶景が魅力の親不知ピアパークでの整備の可能性について伺います。

(5) 親不知海水浴場は、市内に6つある海水浴場の中で唯一シャワー設備のない海水浴場ではありますが、シャワー設備を始めとした環境整備について伺います。

質 問 事 項

- (6) 自転車、歩行者に対して国道8号の天険トンネルを避けるよう親不知コミュニティロードに誘導していますが、道路が大きく破損している箇所があります。観光資源としても価値のある親不知コミュニティロードの今後の整備について伺います。

2 ヒスイを最大限に活かした取組の推進について

【答弁者：市長、教育長】

現在、県ではヒスイの「県の石」指定に係る検討委員会が開かれており、糸魚川市にとって観光のエースとも言われているヒスイが県の石に指定されれば、当市が全国から注目されることと考えます。

以下伺います。

- (1) 当市には国の天然記念物である小滝川ヒスイ峡と青海川ヒスイ峡がありますが、ヒスイ峡を活用した観光、教育等の取組状況と今後の展望について伺います。
- (2) 今後、市内外に向けてヒスイをどのように発信し、PRしていくのか伺います。
- (3) 押上ヒスイ海岸だけでなく、須沢海岸から市振海岸まで多くの方がヒスイを探しに訪れています。これらの海岸をヒスイ海岸に指定し、より強くPRする考えがあるか伺います。

3 認知症に理解あるまちづくりの推進について

【答弁者：市長】

高齢化も重なり、認知症患者が増加し続けている現状であります。認知症に理解あるまちづくりに大切なのは住民との連携、対応の周知だと考えます。当市としても様々な取組を行っていますが、家族や関係機関だけでなく、地域全体で認知症の方を支えていく仕組みづくりが重要だと考え、以下伺います。

- (1) 携帯用徘徊センサーの貸与状況と、効果があった事例について伺います。
- (2) 認知症高齢者等見守りシールの交付状況と、効果があった事例について伺います。
- (3) 住民との連携、対応の周知の推進について伺います。

⑫ 東 野 恭 行

1 駅北地区における核施設（子育て支援施設）の在り方について

【答弁者：市長】

駅北子育て支援施設整備基本計画の策定について、令和4年7月から始まった3巡目の聞き取りが終了しました。様々な市民団体よりたくさんの意見や要望が出されたと思います。これらをしっかり受け止め、駅北に施設の建設が実現するならば、公共が担うべき役割をしっかり果たしていただきたいと考えます。

多くの人が交流できる場の創出を願い、20年後、30年後も地区や市民の皆様が親しみ続けられる施設設置のために、時の「責任者」として、会派を代表して質問、提言させていただきます。

- (1) 子育て支援施設整備基本計画の策定について、3巡目の懇談会が終了しましたが、当該施設の設置について前向きな議論ができたか、否定的であったか、市の感触を伺います。
- (2) 子育て支援施設の機能について、今後、民間事業所と事業参画の可能性も追求しつつ構築していくと考えますが、市が考える子育て支援施設設置の目的と、目標について改めて伺います。
- (3) 3巡目懇談会資料の「高齢者支え合いセンター」とは何か。子育て支援施設との空間のすみ分けで、当該施設は多世代の交流できる場所とするのか伺います。
- (4) 中学生や高校生の居場所として、当該施設に「自由に会話」をしたり「学習」ができるスペース設置の必要性について伺います。
- (5) 市として、図書コーナー（図書館）と子育て支援施設との相性はどのように考えているか伺います。また、図書コーナーを設けるならば、子育て世代だけに利用を促進したいのか伺います。
- (6) 子育て支援における「屋内遊技場」の設置希望が多くあるとのことですが、設置場所の適地についての議論があったのか伺います。
- (7) 当該施設設置により、周辺地区や商店街にもたらす影響の予測と、市としてその地域に期待することを伺います。
- (8) 当該施設は設置後20年、30年と市民から親しまれる駅北の「核」となる施設とお考えか伺います。

⑬ 田 原 洋 子

1 糸魚川駅の利便性向上について

【答弁者：市長】

糸魚川駅アルプス口と日本海口にあるヒスイ王国館の駐車場は、北陸新幹線、大糸線、えちごトキめき鉄道の利用者が多く利用しています。中でも、北陸新幹線を利用する場合は、アルプス口にある駐車場、ヒスイ王国館の駐車場の駐車券を改札内にある認証機に通すことで、4日間（96時間）無料になります。

この駐車場の空き情報はネットで確認できるようになり、満車時に駅の反対側の駐車場へ行くために駅を迂回する不便さが解消されつつあります。

しかし、4日間無料のため、見込める利用料金の収入が減少し、駐車場維持管理の費用に影響を及ぼしているのではないのでしょうか。

さらに、ヒスイ王国館の駐車場サービス券は、アルプス口の駐車場で使えないため、ヒスイ王国館で一度に多くの方が集まる催事や会合があった場合、主催者が駐車券を事前に買い上げ来場者に配布しても、アルプス口に駐車した方は利用できず不公平感があります。

さらに、ヒスイ王国館1階にある観光物産センターで3,000円以上の買物をするると30分無料券をもらえますが、アルプス口の駐車場に車をとめた場合には無料券を使うことができません。

また、糸魚川駅周辺の飲食店は、13時半頃をラストオーダーとしている店舗が多く、特に定休日の多い日曜日、火曜日は昼食をとる場所に困る観光客が多くみられます。

ヒスイ王国館の1階にある飲食店は、新型コロナウイルス感染症の影響などで、現在営業しているのは夕方からオープンする1店舗のみとなっています。

このため、1時間程度の中途半端な乗換時間を過ごすために、糸魚川駅に隣接しているヒスイ王国館に喫茶店や軽食を求める声があります。

また、糸魚川駅にあるコインロッカーの位置が新幹線改札口の隣、ヒスイ王国館の1階、観光物産センターのレジ近くにある階段脇と分かりにくい場所にあります。

さらに、折り畳んだ自転車、登山の大きなリュック、大型スーツケースが入るサイズが不足しています。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) アルプス口、ヒスイ王国館、それぞれの駐車場で、新幹線利用者はどのくらいいますか。
- (2) 新幹線利用者は実際に何時間とめるか、調査はしていますか。
- (3) 受益者負担の原則から、新幹線利用者の駐車料金を無料から、ある程度有料にする考えはありませんか。
- (4) アルプス口の近くにあるJRの宿舎跡地は、コロナ禍前はアルプス口の駐車

質 問 事 項

場が満車になるため繁忙期に開放されていましたが、第3の駐車場として活用する考えはありませんか。

- (5) ヒスイ王国館の駐車券をアルプス口で使えるようにする考えはありませんか。
- (6) 大糸線、えちごトキめき鉄道利用者に対して、駐車場を48時間まで無料にする社会実験を過去に行っていましたか、その結果はどうだったのですか。
- (7) ヒスイ王国館1階の空きスペースに、飲食店の入居者を確保する働き掛けは行っていますか。
- (8) コインロッカーの大型化若しくは荷物預かりを、積極的に行う考えはありますか。

2 糸魚川駅北に計画中的子育て支援施設について

【答弁者：市長、教育長】

糸魚川駅北に整備が検討されている子育て支援施設は、現在更地になっている旧井上商会跡地と、隣接している旧東北電力ビルを解体して施設機能の拡充を図るとしています。

この施設は、糸魚川駅北大火後のにぎわい創出をどうするか、から始まっています。

そこに、国道148号近くの上刈にある、やまのい保育園内にある「発達支援センターめだか園」の利用者が増えて、手狭になっていることから、同じ敷地内にある「糸魚川子育て支援センター」を移転し、移転後のスペースを「発達支援センターめだか園」で活用すること、また、平成29年に子ども・子育て支援事業計画の見直しのために、小学生以下の子供がいる全世帯に対するアンケートでは、回答した約1,890人の中で、施設整備に関する自由記述欄に「屋内遊戯施設が欲しい」が約100件あり、一番多かったこと、平成30年に行った、にぎわい創出アンケートでは公立保育園、私立幼稚園の保護者と、子育て支援センターの利用者、小学校2校の保護者約200人がアンケートに回答し、約55%が「雨の日でも遊べる場所が欲しい」と考えていたことから、子育て支援施設の検討が進められているものです。

現在、子育て世代、自治会、経済団体、まちづくり団体等と3巡目の懇談会を開き、意見を頂いているところですが、意見交換の団体に入っていない市民からは「商店街の一角に子育て支援センターが移転するようだ」と、何となくでしか情報が伝わっておらず、実際に子育てをしている世代や、お孫さんを預かる機会の多い世代の方からは「自分たちの意見や考えを伝える方法がない」という声をお聞きします。

さらに、子育てに対する価値観や経験、子育て支援施設に対する期待値や興味の度合い、近くに子供を預けられる人がいるかいないか、糸魚川市内の子育て支援センターや上越市のオーレンプラザを始めとした、市外の施設を利用したことがあるかどうかで、意見は大きく違っているのではないのでしょうか。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

質 問 事 項

- (1) 糸魚川子育て支援センターの移転先として、駅北を候補地に挙げたのはなぜですか。
- (2) 現在の糸魚川子育て支援センターから移転することで追加される機能は何ですか。
- (3) 旧東北電力ビルの解体はいつ行われますか。
- (4) 子育て支援施設の対象年齢は何歳までを想定していますか。
- (5) 一時預かり保育は休日、夜間も利用できますか。
- (6) 一時預かり保育の利用料は検討していますか。
- (7) 糸魚川市内の公私立保育園・幼稚園の保護者にアンケートを取ることは検討していますか。
- (8) 入園前の乳児がいる保護者、妊婦の意見はどのように取り入れていますか。
- (9) 市民から広く意見を聴くために、糸魚川市公式LINEやネット回答を活用することは検討していますか。
- (10) 運営はどのようにしていきますか。
- (11) 駅北にある糸魚川地区公民館、市営駅北復興住宅の交流スペース、駅北広場キターレ、相馬御風宅、商店街、公園との連携はどのように取っていきますか。
- (12) 子供がのびのび遊べる場所として、公民館や体育館、集会場など広いスペースがある場所に開放日を設ける考えはありませんか。

3 買物弱者の対策について

【答弁者：市長】

糸魚川市内では建物の老朽化、後継者不在、採算性が取れないなど、様々な理由で身近な小売店が閉店し、普段の買物に困る方が多くいます。

特に免許返納をしたり、車を所有していない高齢者のみの世帯にとっては、買物に出掛けたときにまとめ買いをする、欲しいものを別居しているお子さんやお孫さんに電話でお願いしたり、宅配便の要冷蔵を使い市外から食料品を送ってもらうなど、その人なりの工夫をされています。

また、糸魚川市では移動販売支援事業があり、バス停まで歩くのが大変な世帯の方でも、移動販売車が家の近くまで来てくれるので、とても助かっているという声があります。

その一方で、中には牛乳1本を買うにしても、成分無調整か低脂肪か、飲みきれないから1リットルではなく500ミリリットルにするか、たまにはコーヒー牛乳がいい、と選ぶ楽しさや、普段食べているヨーグルトと違うメーカーを選んだら気に入った、といったように決まったもの以外を食べる喜びを求める方もいます。

さらに、スーパーで買物をするということは、店内を歩くだけでも足の運動になり、家の冷蔵庫と野菜は何があったかを覚えれば記憶力の向上、特売品で献立を考えるの

質 問 事 項

は頭の体操になり、健康増進につながるのではないのでしょうか。

糸魚川市では路線バスの停留所や駅から離れた地域の交通手段として、コミュニティバスと乗合タクシーが運行されています。

能生地域は川詰、大洞、高倉の3路線が能生国保診療所、能生駅、能生事務所を經由し、そこから乗り換えることで糸魚川地域と上越方面に行くことができます。

青海地域は玉ノ木、市振・上路の2路線が市振駅、親不知駅を經由し、商業施設が多いほっこり館から糸魚川総合病院行きのバスに乗り換えることができます。

山之坊・木地屋地区は平岩診療所を經由し、平岩駅から糸魚川駅へ、小滝地区は小滝診療所を經由し、小滝駅で大糸線に接続しています。

下早川地区と上早川地区は、しまだ医院の前で路線バスに乗り換えることとなります。

運行経路上安全な場所であれば、どこでも乗り降りできる路線や、予約が必要ない地区もあり、大変重宝されています。

しかしながら糸魚川駅まで来ても、買物をしたい商業施設に行くためには更にバスへの乗換えが必要になり、帰りに再びバスに乗って、電車に乗ってと、接続時間がうまくいかないために買物したいものを諦めることがある、とお聞きしたことがあります。

浦本地区にお住いの方からは、糸魚川駅方向に行っても駅前のスーパーが無くなったから、バスか電車で能生方面に行くことが多くなった。能生に行けばスーパー、ホームセンター、能生事務所、金融機関、商店街が近いので、一度で用事が足りる、と教えていただきました。

浦本地区から能生方面に向かうバスであれば乗換えがなく、用事を済ませたついでにラーメンでも食べていこう、とたまには外食もできていい、と話されていました。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) コミュニティバスの利用状況はどうですか。
- (2) スーパーマーケット、ドラッグストア、衣料品店が集まっているエリアに直通のコミュニティバス若しくは乗合タクシーを運行する考えはありませんか。
- (3) 移動販売車の空白地帯はありませんか。
- (4) 移動販売車が来てほしい地域や、寄ってほしい場合は、どこに相談すればいいですか。
- (5) ネットスーパー、宅配の使い方を学ぶ機会を設ける考えはありませんか。

⑭ 中 村 実

1 糸魚川市の自然を活用した交流人口の拡大について

【答弁者：市長】

当市には日本海から北アルプス、そして約 50 キロメートルにも及ぶ海岸線など多種多様な自然が多くあり、観光においても有効に活用を図っているところではあります。また、まだ多くの自然を利用した遊びや学び方があると思います。最近ではコロナ禍において、ソーシャルディスタンスを保つことができる野外でのアクティビティが見直されており、市内でも多くの長野・松本方面からの車が見られています。また、最近では栃木や群馬・埼玉方面からの車も増えてきていることから、今後も糸魚川市内の自然の中で体験できるレジャーを知っていただき、また来たいと感じるようなPRを行う必要があると思いますが、以下の点について伺います。

- (1) 海の家は海水浴場にはなくてはならない風物詩ではありますが、現在は大和川に1軒と能生地域に3軒と少なくなってきているとともに、浜の整備にも影響が出てきています。海水浴は夏季限定の短い期間ですが、当市では有益な観光として貴重であります。そこで、これ以上海の家を減らさないよう今後どのような方策で海水浴客の増加を考えているのか伺います。
- (2) 7月16日、17日に開催されたシートゥーサミットについて、当市では能生海水浴場をスタート地点とするカヤックをメインとする区間を担当し、好評の中開催されましたが、運営体制や参加者など課題等はなかったのか。また、次回開催について伺います。
- (3) 能生の浜ではジェットスキーやプレジャーボートなど、また能生川河口や百川・藤崎・筒石の浜では一年を通し、サーフィンを楽しむ若者が増えてきていますが、市としてサーファーとの情報交換など、連携した取組を行っているのか伺います。
- (4) 過去にはトライアスロンやグランfondなど、海や山を使ったスポーツもありましたが、残念ながらやめることとなりました。この大会には多くの参加者とボランティアが関わり開催されてきましたが、やはりボランティア不足が大きな要因ではないかと思えます。開催当時は地域への経済効果も相当なものがあったと思いますが、できれば再度開催することにより、市外や県外から多くの参加があると思いますが、市としての考えを伺います。
- (5) 糸魚川市は今後、海・山の自然を活用したアクティビティ体験者を増やす必要があると思いますが、考えを伺います。

質 問 事 項

⑮ 田 中 立 一

1 入札業務関連について

【答弁者：市長】

(1) 健康づくりセンター「はびねす」の入札業務について

- ① 平成18年の健康づくりセンター基本設計業務委託では、プロポーザルで公募し、落札した設計業者が基本設計業務及び実施設計業務を行っているが、その後、平成21年に再度、実施設計業務を発注しているのはなぜか伺う。
- ② 屋内プール増築実施設計業務委託では県単価の漏えいが発覚したが、元市職員の県単価漏えいは今回が初めてとは思えない。市の認識はどう捉えているか。同じ職員と設計業者が関わった「はびねす」1期工事に遡っての調査についての考えを伺う。

(2) 駅北大火復興事業の入札について

- ① 県単価の漏えいが新たに2件発覚した。駅北大火復興市営住宅実施設計業務委託での漏えいは「はびねす」屋内プールと共に元市職員の関わった案件だったが、最初の3件と今回の2件の違いをどう捉えているか伺う。
- ② 市営駅北復興住宅、にぎわい創出広場、防災広場備蓄倉庫における設計から建築関係までいずれの入札も落札率が99%近くと高く推移していることについて、どのように捉えているか考えを伺う。

2 ヤングケアラーについて

【答弁者：市長、教育長】

大きな社会問題となっている「ヤングケアラー」について、国の新たな方針も示される中、市としてはどのように捉え対応するか、考えを伺う。

3 農林業について

【答弁者：市長】

(1) 有機農業について

7月に金子前農林水産大臣が上越の有機農業を視察し、市民との対談で、市民からの「有機農業需要増にまず学校給食から」という話に「国は方向性を示せるが、やれるのは自治体。学校給食の取組は良い提案」と話したと聞く。当市において有機農業の現状と今後広めることについて、市の考えを伺う。

(2) インボイス制度について

1年後に開始予定のインボイス制度は分かりづらく、影響が大きい割に周知が

質 問 事 項

行き渡っていないように見受けられる。

来年3月までに登録申請をしなければならない事業者もあるが、特に一次産業の事業者の中には苦手とされる方が多いのではないかと思われ、サポートが必要ではないかと思うが、市の考えを伺う。

(3) 林業の振興について

6月定例会で森林環境譲与税について質問したが、その時にも触れた首都圏との連携について考えを伺う。

4 神代桜の宇宙桜について

【答弁者：市長】

日本三大桜に数えられる神代桜の宇宙桜の苗が、市民の紹介により当市にも植えられる話が進んでいる。

「花伝説・宙へ」の事業で若田光一宇宙飛行士とともに宇宙へ行き、戻った神代桜の種から発芽したもので、当市でも同様に宇宙へ行ったササユリ「宙ゆり」があり、関係人口の創出にも期待が持てるのではと期待するところであるが考えを伺う。

5 動物愛護の取組について

【答弁者：市長】

行政を始め動物愛護団体等の努力により、犬・猫の殺処分数は減少傾向にあるが、猫の多頭飼育崩壊、野良猫による環境の悪化などの話もまた各地で聞かれる。

市内においてもこれらの問題は存在するが、どのように現状を把握し、対応しているか考えを伺う。

⑩ 田 原 実

1 市街地の活性化、大町区「子育て支援施設整備」及び押上区「新駅周辺整備」における、にぎわいづくりと民意の反映について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 大町区「子育て支援施設整備」について

- ① 子育て支援部分の設計、運営について、改めて伺います。
- ② 子育て支援以外の公共施設部分の設計、運営について伺います。
- ③ まちの中心部に住みながら日常の買物や交通に不便を感じ暮らす大火被災者住民への対応について、改めて伺います。

質 問 事 項

- ④ 駅北復興まちづくり計画を始め様々な計画が作られてきましたが、行政の対応は被災者・住民に向き合い、対話を重ね、被災者・住民が納得していただく計画の進め方だったのか、改めて伺います。
- ⑤ 市が目指す「複数分散型」のにぎわいづくりは、残念ながらうまくいっていないように感じますし、これからも難しいと思います。戦略としての「まちなか大家族」はいつ、どのような形で実現できますか、伺います。
- ⑥ 子育て支援施設整備をDBOとすること、建設費を10億円から12億円とすることの根拠をそれぞれ伺います。

(2) 押上区「新駅周辺整備」について

- ① 令和3年3月13日の駅開業後の周辺整備について、押上区のまちづくりの計画との整合性、地区要望への対応について、伺います。
- ② 令和4年8月18日に開催された「押上駅×糸高生 探究活動プロジェクト」提案発表会から知る若い人たちのアイデアと、実現に向けての市の取組について、伺います。
- ③ 押上区新駅周辺整備と移住促進を、地元、高校生、移住者で考える会を発足させてはいかがですか、伺います。

⑰ 横山人美

- 1 発達障害がある市民とその家族が、糸魚川で安心して暮らし続けることができるための、それぞれのライフステージにおける正しい理解と雇用の促進、並びに、それを支える教育と福祉と地域社会との連携の必要性について

【答弁者：市長、教育長】

平成17年4月に発達障害者支援法が施行されて以来、学校や社会の中に、その認知や理解が広がりつつある発達障害には、障害の分類を明確に診断することが難しいこと、障害ごとの特性がそれぞれ少しずつ重なり合っている場合が多いこと、年齢や環境の変化により目立つ症状が違ってくるなど、一人ひとりに現れる症状や行動が定まらないという特徴があります。発達障害が理解されにくい大きな原因の一つとされる、「外見からは障害があることが分かりにくい」ことや、「知的レベルにも個人差」があるため、幼児期は、しつけや過保護などの親の育て方に問題があると思われたり、わがままや短気など当事者の性格の問題だと思われたりしてしまっていることがあります。また、障害に対する認知が進んだ今日でも、「同じ行動を繰り返す」「空気が読めない」「共感するのが苦手」など、仕事や人間関係に及ぼす障害の特性に対する適切な理解や支援が受けられず、それが原因で社会への参加をためらう、諦めてしまうなど、生きづらさを抱える二次的な障害を発症するケースもあります。

質 問 事 項

発達障害は、適切な理解と支援の下で、本人や家族・周囲の人が特性に応じた日常生活や学校・職場での過ごし方を、お互いに少しずつ工夫することで、持っている力を活かしやすくなったり、日常生活の困難を軽減させたりすることができます。

市民の誰もが「安全に安心して住み続けられるまちづくり」「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す糸魚川市において、発達障害がある市民とその家族が、安心して暮らし続けることができるための、それぞれのライフステージにおける正しい理解と雇用の促進並びにそれを支える教育と福祉と地域社会との連携の必要性について共に考え、障害の特性を「強み」として生かせる社会の実現を共に推進したいと願い、以下の質問をいたします。

- (1) 0歳から18歳までの子ども一貫教育方針における、発達障害児への支援と課題について伺います。
- (2) 学齢期を終えた発達障害者への支援と課題について伺います。
- (3) 糸魚川市民に向けた発達障害への周知と理解の推進はどのように行っていますか。
- (4) 市内企業に向けた発達障害への周知と理解の推進はどのように行っていますか。
- (5) 市内における発達障害者の一般就労の現状と課題について伺います。
- (6) 市内における農福連携の現状と課題について伺います。
- (7) 乳幼児期から成人期まで、発達に特性がある市民のライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築のために、必要なことは何と捉えますか。

2 高齢者がいつまでも健康で、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるための、地域における支え合い体制の維持・強化の取組の推進と地域包括支援センターとの連携について

【答弁者：市長】

糸魚川市では、今年度から、高齢者の相談対応等生活支援業務を担う地域包括支援センターの機能強化を図るため、中核的機関として「基幹型包括支援センター」が設置され、各センターの支援や関係機関との連携・調整を行っています。

介護保険制度が施行され20年以上が経過し、高齢者の施策が充実する中で、家族や地域に見守られ、支え合いが構築された中で、高齢者が安心して暮らし続けられることは、人生の最終章を迎えた人としての理想の姿だと考えます。

しかし、残念ながら市内には、数ある支援の存在すら知らずに暮らしていたり、地域との折り合いが上手くいかず支援を拒んだりして、孤立している高齢者の方々がおられます。

市内にお住いの高齢期を迎えた方々が、誰一人取り残されることなく安心して暮らし続けることができるために、地域全体でどのような働き掛けが必要なのかを共に考

質 問 事 項

えたく、以下の質問をいたします。

- (1) 糸魚川市全体で、地域包括支援センターに寄せられる年間の相談件数を伺います。
- (2) 寄せられる相談や通報が支援につながるまでの平均的な日数、また、支援につながらない場合の主な理由はどのようなケースか伺います。
- (3) 一人暮らしや高齢者世帯など、施策や情報が行き届かないと予想される、又は拒否がある場合の働き掛けはどのように行っていますか。
- (4) 現在、地域包括ケア係で展開している「地域でつくる元気なまち、地域支え合い推進事業」(生活支援体制整備事業)は、地域における支え合い体制の維持・強化の取組として、大変期待できる事業と考えます。事業の現状、課題、今後の展開について伺います。